

2016年(平成28年)9月15日(木曜日)

東京キワニスクラブが青少年教育賞表彰

最優秀に福島の子童支援



最優秀賞を受賞し、表彰状と副賞を受け取った日本教育再興連盟の関係者ら

日本教育再興連盟 学生が職業観と夢育む

東京キワニスクラブ(吉國真一会長)は、関東・甲信越地域で青少年の健全育成に努める学生ボランティア団体などをたたえ、活動の支援につなげる「青少年教育賞」の表彰式をこのほど、都内で開いた。今回が32回目で、最優秀賞1団体、優秀賞3団体を選ばれた。最優秀賞を受賞したのは「NPO法人日本教育再興連盟」。福島の子どもの職業観を育むツアーや、小学校、高校の教育現場に参画したボランティアを展開している。実際の教育現場に参画した活動などが高く評価された。

表彰式は10日に行われた。日本教育再興連盟が開催しているツアーは、避難を余儀なくされ、職を失った親を持つ福島県飯館村や南相馬市の子どもたちが対象。東京の企業を訪れることで、働くことを考え、将来の夢を見いだす支援をしている。受賞者のプレゼンテーションに立った永井若奈さんは「将来への前向きな気持ちを見せてくれた子どもたちが多く、うれしかった」と話した。

大学生ボランティアを小学校に派遣。授業はもちろん、給食や休み時間も共に過ごし、信頼関係

を醸成しながら、子どもたちの「できる」を見つけて出す。関東の私立中高一貫2校にもボランティアを送っている。永井さんは受賞を契機に、「ボランティアに通う大学生や提携校を増やし、活動を拡大したい」と話した。一方、優秀賞を受賞したのは、「多摩大学村山ゼミ・日本大好きプロジェクト」と「国際ボランティア学生協会・東京多摩クラブ&東京八王子クラブ」。

日本大好きプロジェクトは、東京23区を中心に幼稚園、保育園、児童館を訪れるなどし、子どもたちに日本の伝統文化を伝承している。国際ボランティア学生協会の2クラブは、八王子市の市民団体と連携し、発達障害を持つ市民の活動支援に力を入れている。

表彰式ではこのほか前年度の同賞受賞者の近況報告や、東京キワニスクラブが取り持つ学生ボランティアのネットワーク「キワニス・ユース・フォーラム」に参加する部活動、団体の活動紹介を実施。家庭部、ガールスカウト活動、手話、アジアの児童質問など、参加者たちはキワニスとともに広がりを見せるボランティアの今を共有した。

キワニスは、子どもたちの支援に力を入れる民間の奉仕団体。東京を含め、全国に33のクラブがある。電力・エネルギー関連の会員も活躍しており、子どもたちの心に明かりをともす活動を続けている。